平　成　２８　年　度

旭丘中　学校便り

第　４　号　　練馬区立旭丘中学校：発行　７月

旭丘中学校区の小中一貫教育

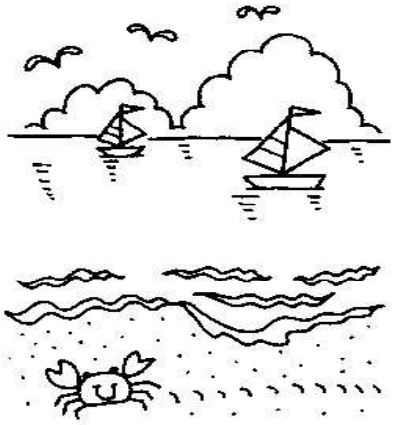
校長　南　俊 彦

小中一貫教育を考える前に、小学校と中学校の違いをあげてみます。まず授業時間が小学校は 45 分中学校は 50 分、たかが 5 分と思いますが中１の生徒にとっては長く感じるようです。授業の間の時間は小学校 5 分、中学校 10 分。中学校は 10 分間に教室移動や体操服の着替えを行なわなければなりません。小学校には 2 時間目と 3 時間目の間に中休み（20 分）があります。教科は算数が数学、図工が美術と技術、中学校では本格的に英語の授業があります。また小学校は学級担任制、一日同じ先生が教えます。中学校は教科担任制で教科によって教える先生が変わります。学級担任制の場合、1 日同じ担任が授業をしているので、今日は午前中疲れているから、午後は少しゆっくり授業を進めようという配慮が可能です。中学校では教科担任制なのでそれぞれの教科担任は「今日はこれを教えよう！」と準備して授業を行います。疲れている感じはすぐに察知するとは思いますが、他クラスの進行状況もあり、簡単にペースダウンという訳にはいきません。こういった小中学校の違いが子供たちには乗り越えられないことがあります。いわゆる「中一ギャップ」と言われているものです。中一ギャップは不登校やいじめの温床になりやすいとも言われます。そこで小学校と中学校で接続をスムーズにして不登校やいじめをなくそうと全国で「小中一貫教育」に取り組んでいます。練馬区の小中一貫教育は「授業改善による学力・体力の向上」、「連携指導による豊かな人間性・社会性の育成」、「滑らかな接続による安定した安定した学校生活」の３つを通して、学習意欲や自己肯定感の向上、不登校の減少をめざしています。

旭丘中学校は、旭丘小学校と小竹小学校と一貫教育を進めています。これまでも小中学校の教員間で研究を進めてきましたが、今年度は中学校の英語科の教員が、小学校５，６年生の外国語の授業に関わっています。1 学期は補助的な動きが中心でしたが、1 学期終わり頃から中学校の教員が中心になって小学校の英語の授業を進めていきます。その他、算数の研究授業に中学校の数学科の教員が参観に行ったり、熊本地震の義援金募金活動を自分の学校だけではなく、小学校に中学生が応援に行きました。本校で決めた SNS ルールを小学校にも知らせて、この地域の小中学生の SNS ルールにできないか小学校に検討してもらう予定です。日大芸術学部の教職課程受講生が小学校と中学校をそれぞれ見学するといった活動も小中一貫教育に関連した活動です。先日、小学校の先生に授業を見ていただき、意見交換した際に「中学 3 年生を見ていると、小学校から中学校に進学することをきっかけにとても成長している」というお話がありました。環境の変化が成長を促しているともいえます。また、6 年生は運動会で最上級生として応援団長をやり活躍することで成長していくというお話がありました。小学校から中学校への切り替えをきっかけに成長していく良さを一貫教育では、どう引き継いでいくのか検討しなければいけない課題だと考えています。

夏休みに向けて

生徒のみなさんへ



いよいよ楽しい夏休み。勉強、遊びやお手伝い、部活など色々楽しみにしていることと思います。有意義な夏休みにするためには健康第一です。そのためには早寝早起きで生活のリズムを整えることが必要です。早寝をするには朝、しっかり光を浴びることが大切です。朝の光をしっかり浴びると15、16時間後にメラトニンというホルモンが分泌されます。それで入眠準備ができるという訳です。

次に勉強もしましょう。毎日の勉強は決まった時間に始めることが大切です。そして、はじめは計算問題のような単純で、すぐ終わるものがおすすめです。脳の血流がよくなり脳のウォーミングアップになります。

健康第一、勉強も大事、家のお手伝いも、もちろん大事。大事なことはいろいろあります。でも長い夏休みです。普段なかなかできなかったことに熱中して取り組んでください。熱中体験を経験した人は、将来、自分のやりたいことを自分で見つけることができます。自分で人生を切り開く力が身に付きます。「自分のやりたいことが見つからない、特にやりたいことがない」というようにはなりません。何かに、熱中して取り組む夏休みにしてください。

保護者の方へ

平成 21 年度厚生労働省全国家庭児童調査結果によると「不安や悩みがある」と答えた中学生の割合は 81.2 %だったそうです。具体的には「勉強・進路」「顔や体型」「自分の性格」「学校生活」などです。すこし古い調査ですが、現在の中学生も 8 割の生徒が何らかの悩みを持ちながら生活しているといえます。

長い休みが終わる直前、休みが終わった直後に残念で、悲しいことですが子ども達の自殺が増えています。休みが終わる頃、絶望的な気持ちになってしまうことがあるようです。
どうかご家庭で、「つらい気持ちの時は深呼吸をする」、「適度な運動をする」、「気持ちを文章にあらわす」などの気持ちの切り替え方のお話をしてあげてください。また不安や悩みからくる自分の心の声と上手につきあうための一番の方法は信頼できる人に話すことだと言われています。他の人に自分の悩みを話すことはとてもつらいことです。「こんなこと言ったら笑われるんじゃないか」「だめな子と思われるんじゃないか・・・」と考えてしまいます。でも少しだけ勇気を出して話してほしい。あなたの話を真剣に聞き、受け止めてくれる人が必ずいるということを伝えてあげてください。

9 月 1 日始業式、元気な明るい顔で全員が体育館で揃うことを願っています。